



NO. 902
 発行年
 2017年
 1月26日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 齊藤 仁司
 編集責任者
 教 宣 部

じん肺どうして発症？

地本旗開き & 学習会開く

地本旗開きが1月21日(土)10時30分より新潟市東映ホテルで全体で30名の出席で開催しました。今年も前段に学習会を企画・「じん肺とその対策」について学習を深めました。

講師に建交労 永島副委員長

講師には、建交労・永島副委員長に要請、講演していただきました。学習会・終了後は、12時より旗開きを同じ会場で開催しました。齊藤委員長のあいさつ・国労東日本



建交労 山崎委員長あいさつ

山崎委員長から「JRの職場では、じん肺・アスベストなどの労災が多くなつたが、職場での取り組み、闘いをやっ



てこれなかった。建交労に入ってから取り組み、闘ってきた。じん肺闘争は、裁判でないと、きちんとしたものが決まらない。

国労と一緒闘ってきた。国労新潟とこれまで一緒に闘って闘ってきた。働くももの権利を国労と共に闘い、春闘共闘の一員として闘っていく。5月統一メンバーの取組み、JAL闘争でも一緒に統一闘争を進めていく。ともに一緒に共闘を進めていく。これからの運動を進めていこう。」とありました。



齊藤委員長 あいさつ

私たち、国労新潟地方本部は少数の闘い方を経験してきています。その経験を生かすことが2017年に求められています。

職場では慢性の人員不足の中、何でもありのルール無視・法令違反の状況が見られます。一例では、法律(労働安全法)を武器にするとともにその背景を生かす運動を作り上げていくことが重要だと思っています。学習を背景に確信を持ち職場での法令違反を摘発する点検行動と、職場の形骸化されている労働安全衛生委員会に問題点を提起し職場に問題を広げていく取組みも、職場で国労の存在感を高めていく一つだと思ひます。

更に、昨年からも労災認定の闘いも強化していかなければなりません。認定されることはもちろんですが、新たな労働災害を発生させない取組みも強化していく必要があります。

まだまだ、課題は山積していますが、2017年は国労誕生70年の年であります。今後の国労の未来を切り開く重要な年と位置付け、あわせてJR発足30年の検証をする年です。

2017年春闘をはじめ、多くの課題の解決に向けて職場・地域から活動強化し全国統一闘争に繋げていくために一人ひとりが活動を進め、その先頭に国労新潟地方本部が立ち奮闘することを申し上げ新春旗開きの挨拶とします。

(あいさつ抜粋)



国労東日本本部 渡辺執行委員あいさつ

JRに移行して30年・どうだったのか、という学習会・命と暮らしが脅かされている。神奈川県でも労災の認定を取得した。働く労働者の職場環境を越えて闘う。



安全問題・列車の遅れなど通年的なものになっている。信越線の踏切遮断棒の撤去。ホームドアの設置について人身事故が多発しているが遅れている。労働者が安全問題に関わっている。みなさんの職場で何が出来るのか、取組みを進めていく。職場・地域での奮闘をお願いしたい。
17春闘より1月28日、国労中央委員会ですべての方針が決定する。エリア委員会は2月5日に開催する。安全問題・暮らし・大幅賃上げを求めていく。働くものの団結を。

その後、斉藤委員長の乾杯の音頭でスタートしました。約2時間でしたが交流を深めました。国鉄労働組合歌を全体で歌い、最後は斉藤委員の団結がんばろう！で終了しました。お疲れ様でした。

じん肺とその他の対策

講師 建交労副委員長 永島公美氏



じん肺はどうして発症するのか

鼻から粉じんを吸入すると、鼻毛や鼻道で、ろ過される。肺の一番奥の肺胞に達するまでに気管支の壁にある細かい毛が、ほこりを外へ送り出したり、壁から粘液が出て外部へ送り出していく。

高齢者はじん肺に なりやすい

吐き出す力は子ども、老人は弱い。高齢者は、じん肺になりやすい。小さな粉じんは肺胞に残る。小さい粉じんはこれが奥へ入って「じん肺」を発症させる。

じん肺が進んでいくと弾力性を失う。血管をつぶしたり、繊維で固めてしまう。肺の状態は、へちま・スポンジのイメージ。小さい粉がくっついて重なり大きな塊になっていく。じん肺では、呼吸道がじん肺の変化により、荒らされ呼吸をする能力肺内の空気を換気する能力が低下し

身体が酸素不足 吐き出しにくくなる

空気が通過する速さ、量に影響。肺胞や肺胞の壁が固められて、肺の中に入った空気中の酸素と血液が運んできた炭酸ガスを入れ替える作業が非常に難しくなる。身体が酸素不足になる・外へ吐き出しにくくなる。肺胞が押し元に戻りにくくなる。のびきった状態になる。肺気腫。



ケイ酸が 多いか少ないかが問題

じん肺の進むスピード・粉じんの種類・ケイ酸が多いか少ないかが問題。遊離珪酸成分が90%以上のケイ砂工場など、半年から1年で変化、5年くらいで、じん肺に激しく変化

年齢の影響

同じ種類の粉じんであっても初めて吸入する年齢が40歳以前の人と以後の人では明らかに40歳以後の人のじん肺は速く発症する。一にも二にも、じん肺を作らないように、きれいな職場環境づくりが望まれる。

合併症は治療で治る

じん肺の自覚症状は無い。個人差によって違って。高年齢に出る。風邪のとき、じん肺をもっていると肺炎を発症する。それが悪化して亡くなる。他の病気を合併すると重くなる。

じん肺は治らない病気が合併症は治療して改善できる。多い合併症は続発性気管支炎・肺がん。

トンネルじん肺を 無くすこと

トンネルじん肺を無くさなければ、じん肺は無くならない。国へ提訴、粉じんを無くす法律作り。和解し法制化へ。
じん肺の健康診断を受診し続けること。健康管理手帳の取得で受診を続ける。定期検査を右綿肺は6ヶ月に1回無料で受診できる。



●合併症の範囲○

- ①肺結核
- ②結核性胸膜炎
- ③続発性気管支炎
- ④続発性気管支拡張症
- ⑤続発性気胸
- ⑥肺がん（原発性）



○じん肺の自覚症状●

- ①せき・たん・息苦しさ・気管支の炎症に対する外部からの刺激。
- ②肺機能低下（息切れ・呼吸困難・胸痛）
- ③全身的な症状・心臓に次第に負担がかかり不眠・食欲不振・めまい・息切れ・どうきなどが現れる。